

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

虎の門病院消化器外科での国内研修を終えて

日本大学医学部消化器外科

河合 隆治

この度日本臨床外科学会国内外科研修として、2018年1月22日から2月4日の2週間、虎の門病院消化器外科（下部消化管）で研修をさせていただきました。

2015年の夏、虎の門病院の黒柳洋弥先生のご講演で、直腸癌の手術動画を拝見する機会がありました。そのとき、今までに見たことがない非常に美しくかつ細部まで丁寧な手術に感銘を受け、いつかこの素晴らしい手術を見学したいと心に思っていました。その後、日本臨床外科学会の国内外科研修が発足したとお聞きし、すぐに上司に相談したところ許可を得ることができました。日常診療に追われる中で長期間の研修が難しい私にとって、今回の研修は大変貴重な機会となりました。

虎の門病院での週間スケジュールは、月曜日の消化器外科のカンファレンスに始まり、連日にわたり手術があり、手術を中心とした研修をさせていただきました。

その中で、印象的であったのが週1回のビデオカンファレンスでした。術者が執刀した手術動画を編集・発表を行い、スタッフの先生からだけでなく、レジデントの先生からも意見が出るほど、自由闊達な議論がされていました。編集時に術者自身が手術を見返すことで反省することができ、議論することでその後の手術の改善に非常に効果があると感じました。

虎の門病院では、年間約500症例もの下部消化管手術が行われています。そして高難度の手術も丁寧かつ繊細な手技が定型化され、チームとしての総合力の高さを感じました。また部長の黒柳先生が、毎朝7時30分から病棟回診を行い、患者さんの言葉をよく聞き、非常に丁寧に診察・対応されている姿に感動いたしました。このような真摯な姿勢が、数多くの安全な手術を行うことにつながっているのだと思いました。

今回の研修で学んだ手術は3つあります。まず第1に進行下部直腸癌に対する手術です。肛門温存率の向上を目標に、また局所再発率を低下させるよう術前化学放射線療法が行われていることでした。下部直腸癌に対するintersphincteric resection (ISR)、側方リンパ節郭清、骨盤神経合併切除の症例を見学させていただきました。術前化学放射線の影響が高度でしたが、解剖に基づく手術操作や助手の展開が印象的でした。14時間を超える長時間の手術となりましたが、最後に術中迅速病理で断端が陰性であった時の、手術室での盛り上がりは非常に興奮したことを覚えています。

第2に、他臓器浸潤直腸癌の手術です。虎の門病院では、他臓器浸潤直腸癌に対して、術前補助化学療法を行うことで積極的に手術を行っていることでした。実際、子宮浸潤直腸癌に対する切除症例を見学させていただくことができました。今までは論文や学会発表の範囲でしか知り得ないことだったため、実際目にすることができ、骨盤内の解剖について大変勉強になりました。

第3にレジデントの先生方の手術です。スタッフの先生方の指導の下、数多くの症例をレジデントの先生方が非常に生き活きと手術をされていました。その中で、全ての手術に黒柳先生が熱心に指導されている姿が印象に残りました。研修期間中はレジデントの先生方には色々な場面でお世話になり、良い環境の中で研修をすることができました。

今回の研修を通じて感じた虎の門病院の下部消化管外科チームの手術に対する姿勢は、すべては患者さんのため、どんな進行癌であっても「R0手術のために全力を尽くすこと」、高度癒着を認めても丁寧

に「膜の層を大切にすること」、長時間にわたる手術でも「チームとして一丸となつてのりきる総合力」ではないかと感じました。

この研修を通し、今後研鑽を重ね、より良い外科診療を目指し精進したいという気持ちを新たにすることができました。また虎の門病院の消化器外科の先生方と交流を持てるようになったことも、自分にとって大きな財産となったのではないかと感じております。今後、より多くの日本臨床外科学会の若手の先生方に研修に参加していただき、刺激を受けその後の研鑽に繋げていっていただきたいと思います。

最後に、貴重な研修の機会を与えて頂きました、日本臨床外科学会の国内外科研修委員会の皆様、ご指導を賜りました虎の門病院下部消化器外科の黒柳洋弥先生、的場周一郎先生をはじめとするスタッフの先生方やレジデントの先生方、推薦をいただきました日本大学医学部外科学系消化器外科学分野教授高山忠利先生に心より感謝申し上げます。

研修を受けることに、快く送り出していただきました日本大学消化器外科の先生方に深く感謝申し上げます、研修の報告とさせていただきます。